TOKIO MARINE Topics (物流関連速報)

ナバシェバ港、ダルマタル向けの定期コンテナバージ輸送を再開

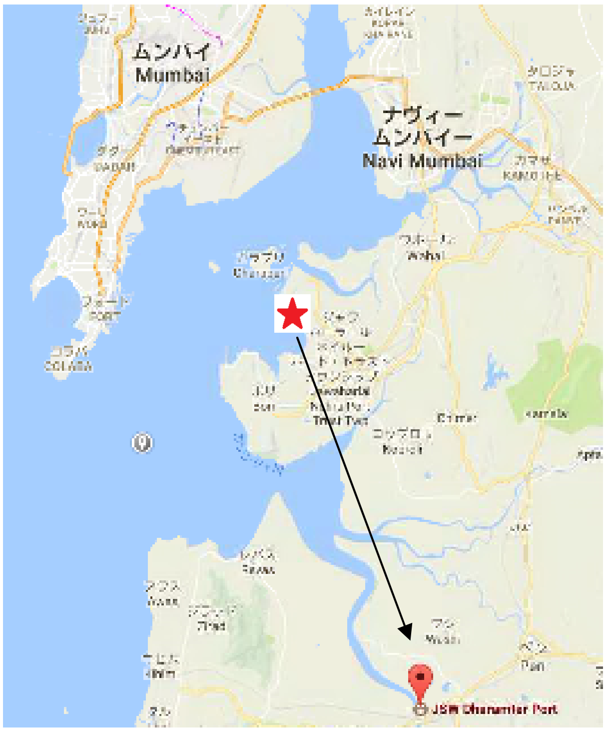
東京海上日動火災保険株式会社
（2017 年 10 月 13 日）

インドで 2017 年末より、運行が中断されていたナバシェバ港―ダルマタル港間の定期コンテナバージ輸送が再開されることとなりました。今号では、その詳細と物流への影響についてお伝えいたします。

1. ナバシェバ港から定期コンテナバージ輸送再開

2017 年末、インド最大のコンテナ貨物取扱量を誇るナバシェバ港で、第 4 ターミナルとなる Bharat Mumbai Container Terminals（以下 BMCT）が操業を開始する予定です。これに伴い、同港からから約 40Km 離れたダルマタル港を結ぶ定期コンテナバージ輸送が再開することになりました。

元々、この地域においてバージ輸送は主力の輸送方法でしたが、ナバシェバ港での港湾混雑による貨物取扱の遅延を受けて、2012 年に運航の中断に追い込まれました。今回新たに建設された BMCT では、第 1 フェーズで年間 240 万 TEU、最終的には 480 万 TEU の貨物取扱量を見込んでいます。この圧倒的な規模と整備されたインフラが、年間約 80,000TEU ものコンテナを扱うダルマタル港への定期バージ輸送再開を可能とし、他のコンテナターミナルとも一線を画すことになります。



（地図： Google Map）

2. 物流に与える影響

バージ輸送を請け負う PNP 社は 80TEU バージでの運行を予定しており、ダルマタル地域で課題となっている道路渋滞を緩和し、割高な輸送コストを低減するものと期待されています。さらに、ナバシェバ港では昨年より導入しているDirect Port Delivery（※DPD）での貨物取扱量が 8 月に 41,978TEU と、輸入貨物全体の 30%に達しており、この DPD とバージ輸送を合わせて活用することにより、さらに安価で迅速な貨物輸送が実現可能と見込まれています。

※従来インドの湾岸では、輸入者が港湾ヤードから輸入コンテナを直接引き取ることはできず、すべてオフドック CFS で引き取らなければなりませんでした。このため、港湾地域では CFS が乱立し、激しい道路渋滞が横持ち輸送コストとともに大きな問題となっていましたが、2016 年に DPD が導入されたことにより、許可を受けた輸入者は直接貨物を引き取ることが可能となりました。

◇◆

本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。

船舶・貨物・運送の保険の情報サイト「マリンサイト」
http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/index2.html